



新収蔵品

石川菰玉「題名不詳（立ち話）」1900年代 絹本着色 実践女子大学香雪記念資料館所蔵



新収蔵品

狩野晴川院兼信「源氏物語（絵巻）」19世紀 絹本着色 実践女子大学香雪記念資料館所蔵

教養としての絵画 観ること 描くこと — 近世・近代の女性たち

2026 6.15^月
— 8.2^日



<https://www.jissen.ac.jp/kosetsu/>
〒150-8538 東京都渋谷区東1-1-49
実践女子大学渋谷キャンパス 1階

実践女子大学香雪記念資料館
Kosetsu Memorial Museum Jissen Women's University

開館時間 10:30 ~ 17:00
休館日 日曜日 ※7月19日(日)、8月2日(日)は開館
観覧料 無料
会場 実践女子大学香雪記念資料館 企画展示室1・2
主催 実践女子大学香雪記念資料館
協力 実践女子大学文芸資料研究所

教養としての絵画

観ること 描くこと

— 近世・近代の女性たち

イタリアのルネサンスの時代、君主たちは才能ある芸術家たちを宮廷に置くことで、自らが優れた存在であることを示しました。中国では、科挙の試験を経て士大夫と呼ばれる高い地位に就いた人々が詩文や絵にも優れました。洋の東西を問わず、為政者たちが芸術を理解し保護してきた歴史があります。日本の平安時代の宮廷でも、中宮たちの教養を高めるために紫式部や清少納言が活躍したことが知られています。『源氏物語』の中の「絵合」からは、絵を見ること、描くことが宮中で重要な教養であったことがわかります。源氏物語を描いた絵は近世の女性たちの婚礼道具としても用いられました。また「女礼式」は近代の女性たちに礼儀作法を説くものですが、その中で示されるように、近世以来、書画は女性たちの教養であり、近代にも受け継がれました。

明治中期からは「美術」は主に男性たちが担うものとなり、東京美術学校は男性たちの学校でした。一方、女性たちには教養としての範囲で女学校や高等女学校の教育の中で絵を学ぶ機会がありました。さらに画業を身につけたい場合には女子美術学校や有名な画家の画塾に通うことになりました。ただし、そうした女性たちの活動は、多くの場合、結婚までのお稽古とされ、展覧会に入選して画家として認められる人は少数でした。また結婚後も画業を続ける例はさらに少数でした。当館では、これまでもそうした様々な女性画家たちの活動に焦点をあてて作品を収集してきました。本展は当館所蔵品を中心に、新収蔵品、本学文芸資料研究所の所蔵品などを加えて、20点余りで構成するものです。

【アクセス】

JR／東京メトロ／東急／京王「渋谷駅」東口C1出口から徒歩約10分

東京メトロ「表参道駅」B1出口から徒歩約12分

※当館は、実践女子大学渋谷キャンパスの1階ロビー奥に位置します。駐車場・駐輪場はありません。ご来館の際は公共の交通機関をご利用ください。また、六本木通り沿いにある正面入口右手の警備室へ入館の旨をお伝えください。

※やむを得ず会期や開館時間を変更する場合がございます。

最新情報は当館ホームページをご確認ください。



<https://www.jissen.ac.jp/kosetsu/>
〒150-8538 東京都渋谷区東 1-1-49
実践女子大学渋谷キャンパス 1階

実践女子大学香雪記念資料館
Kosetsu Memorial Museum Jissen Women's University



徳山(池)玉瀾(漁業図) 18世紀後半 紙本墨画淡彩



新収蔵品

高橋成蔵(緑蔭) 20世紀 絹本着色



新収蔵品

北澤映月(佳人) 1940(昭和15)年頃 絹本着色



柿内青葉(題名不詳(美人図)) 制作年不詳 絹本着色 実践女子大学博物館学課程所蔵



新収蔵品

森川青坡(金装美人) 20世紀 絹本着色

※所蔵の記載がない作品は実践女子大学香雪記念資料館所蔵

【同時開催】

下田歌子記念室「所蔵品による特集展示Ⅰ」

<会期> 2026年6月22日(月)～8月2日(日)